

第五福竜丸の生涯と未来へ繋げる課題 ～デジタルアーカイブ化の試み～

石井 渚、熊崎康文（岐阜女子大学）

1. 第五福竜丸とは

第五福竜丸は1954年、アメリカのビキニ環礁で行われた水爆実験で被爆した遠洋マグロ延縄漁船である。現在、その船体は東京都の夢の島にある都立第五福竜丸展示館に保存されている。

長く非核化の象徴として挙げられていたが、2020年、「西洋型肋骨構造による現存する唯一の木造鯉鮪漁船」として日本船舶海洋工学会から第4回ふね遺産として認定された。水爆実験の被爆船としてクローズアップされ保存されてきたことが功を奏し、我が国の造船史の貴重な未来への遺産としての価値が認められた。

ところが、展示館は2020年からの新型コロナウイルスの感染拡大の影響や、2021年の東京オリンピック・パラリンピックの関係で一時期閉鎖された。その価値を世界中の人々に見てもらう機会を逸したことから、第五福竜丸に関する資料のデジタルアーカイブ化による課題克服を考えた。

2. 第五福竜丸の生涯と文化に与えた影響

第五福竜丸は当初、カツオ漁船「第七事代丸」として1946年に誕生した。1953年から遠洋マグロ延縄漁船に改造され、「第五福竜丸」として計5回出漁、1954年3月、水爆実験に遭遇、被災した。当時の文部省が学術研究のためとして買い上げた。1956年、安全の確認後、東京水産大学の練習船「はやぶさ丸」として改造され、1967年まで練習、調査航海に従事、老朽化を理由に廃船となり、「夢の島」に係留放置された。1969年、平和運動による保存活動が始まり、1970年に「第五福竜丸」と船名が戻され、1976年から第五福竜



図1 第五福竜丸（都立第五福竜丸展示館・以下同）



図2 都立第五福竜丸展示館

丸展示館内で一般公開され、現在に至っている。

第五福竜丸が反核の象徴となったことから、芸術作品、映画作品、文学作品の題材となった。映画作品では「ゴジラ」シリーズがあり、その作品の中には第五福竜丸展示館の写真が登場するシーンがある。

3. ふね遺産としての第五福竜丸

2020年、「西洋型肋骨構造による現存する唯一の木造鯉鮪漁船」として日本船舶海洋工学会による第4回ふね遺産認定の際、エンジンも含めて「ふね遺産第25号」に認定された。戦後の食糧難の時代に建造され、良い状態で保存された現存する唯一の木造鯉鮪漁船であり、肋骨を有する西洋型木造船の構造を現在に伝える貴重な船という点で評価された。



図3 西洋型肋骨構造の模型

4. 第五福竜丸のデジタルアーカイブの試み

第五福竜丸展示館では次の課題がある。

(1)展示館自体の環境に課題があり、木造船の長期保存には適切ではない。(2)船体はコンクリート架台による点支持での陸上展示により、船体が歪んでいる。(3)船体で使用されている木材の腐朽やカビ、虫食いが長期保存に影響を与えている。(4)屋外展示のエンジンはこれまでの経緯から海中に没していた期間が長く、朽ちるのみとなっている。



図4 船尾



図5 スクリューと舵部分



図6 船首側甲板



図7 朽ちるエンジン

こうした課題への対応を含め、展示館が閉鎖されてもインターネット上で第五福竜丸の詳細を閲覧することができるコンテンツがあれば未来へつなげることができる。同館の協力で船体や資料等を撮影の機会を得たので、第五福竜丸のデジタルアーカイブ化案として「第五福竜丸船体アーカイブ」、「第五福竜丸歴史アーカイブ」、「第五福竜丸参考文献アーカイブ」等を考えた。

参考文献

- [1] 公益財団法人第五福竜丸平和協会, この船を知ろう 第五福竜丸建造70年の航路, 2016, 12
- [2] 庄司邦昭, 海事遺産としての第五福竜丸の特徴について, 日本船舶海洋工学会講演会論文集 第24号, p93-95, 2017, 5

(本稿は、石井渚学士論文(令和3年度受理)から、調査結果の一部を元にまとめたものである。)